

*** 今日の健康 (4月) ***

< ノロウイルス GII.17 感染症 >

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は、一年を通して発生していますが、特に冬季11月末頃から発生し、12月～翌年1月がピークになりその後次第に終息する傾向がありますが、2025年はなかなか終息せず4月に入っても流行が続いています。

東京都の基幹及び定点医療機関（2025年3月現在 43か所）の検体より、感染性胃腸炎の原因であるノロウイルス・ロタウイルス・サポウイルスなどが検出されており、その中でノロウイルス GII が 68.2% で最も多く検出されています。

ヒトに感染する主要なノロウイルスは、現在2つの遺伝子群(GI と GII) が分かっており、GIは9種類(GI.1～GI.9)、GIIは22種類(GII.1～GII.22)の遺伝子型に分類されています。進化的解析からGIのノロウイルスはウシノロウイルス、GIIのノロウイルスはブタノロウイルスに同一の起源を有することが推定されています。

ノロウイルス遺伝子群の中で急性胃腸炎あるいは食中毒患者から検出頻度が高く最近話題になっているのが GII.4、GII.17 です。GII.4は2006年以降ノロウイルスによる胃腸炎患者の大半から検出されています。GII.17は2014年頃から、わが国のみならず台湾や中国に出現し流行しており、この遺伝子型のウイルスは、今までのウイルスと抗原性が異なり、このウイルスに対する免疫を持たない人が多いことが推定されるため、今後も流行する可能性があります。

感染経路：手指や食品などを介して経口で感染し腸管で増殖します。

潜伏期間：感染から発症までの時間は約24～48時間

主な症状：吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱です。通常これらの症状が1～2日続いた後、治癒し後遺症ありません。また、感染しても発症しない場合や軽い風邪のような症状の場合もあります。健康な方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化したり、吐ぶつを誤って気道に詰まらせて死亡することがあります。

予防対策：ノロウイルスはワクチンがなく、また治療は対症療法に限られるので、周囲の人と一緒に予防対策を行いましょう。患者のふん便や吐ぶつには大量のウイルスが排出されるので、

- (1) 食事の前やトイレの後などには、必ず手を洗いましょう。
- (2) 下痢やおう吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしまししょう。
- (3) 胃腸炎患者に接する方は患者のふん便や吐ぶつを適切に処理し感染を広げないようにしまししょう。
- (4) 消毒には、次亜塩素酸ナトリウムが有効です。
- (5) 子どもやお年寄りなど抵抗力の弱い方は、加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱して食べましょう。また、調理器具等は使用後に洗浄、殺菌し二次感染を防ぎましょう。
- (6) 症状が無くなっても通常2週間ほどノロウイルスが便の中に排出されるため、

学校や職場などへ行く場合は、2週間ほどは十分な手洗いをするのが大切です
診断方法：通常の場合、臨床症状や周囲の感染状況等から、総合的にノロウイルスを原因と推定して診療がなされていることが多いです。「ノロウイルス抗原検査」は、ふん便中のノロウイルスを簡易検査キットで検出するもので、3歳未満、65歳以上の方等を対象に健康保険が適用されています。簡易検査キットはノロウイルスに感染していても陽性とならない場合もあり、ノロウイルスに感染していないことを確かめることはできません。より確実な検査方法は、ふん便や吐ぶつを用いた電子顕微鏡法、RT-PCR法、リアルタイムPCR法などの遺伝子を検出する方法がありますが高額なため現実的ではありません。

図表は東京都の定点医療機関当たりの感染性胃腸炎患者報告数 2025年3月23日(第12週まで)です。写真はノロウイルス電子顕微鏡写真です

